

産業

京都の産業といえば、誰もが西陣織や友禅染などの伝統産業を思い浮かべるでしょう。しかし、京都には半導体やセラミックなど、時代の先端を行く製品の製造で世界をリードする企業も数多くあるのです。西陣織とICチップ、清水焼とセラミック製品など、意外なつながりを調べてみましょう。

伝統

京都といえば伝統産業が盛んです。古くから伝わる工芸品は、職人の熟練と高度な技術でつくられます。その美しさは、1200年の京都の歴史の中で脈々と受け継がれてきた「もの」を愛しむ心によって生まれるのです。近年は職人も減り、伝統産業を守るための取組もなされていますが、今なおその技術は高い水準を誇っています。

にしじんおり

西陣織



5、6世紀頃、渡来人の秦氏が養蚕・機織りの技術を伝え、平安遷都以後に現在の上記区を中心に発展してきました。色糸を使った絢爛豪華さが特徴の西陣織製品のうち、最も多いのは帯で、約60%を占めています。また着物はもちろん、能衣装・金襴・ネクタイ・ショール・インテリア製品・自動車や新幹線のシートなどにも使われています。西陣織は、熟練した職人の手により、いくつもの工程をへてつくられます。この伝統の技を守りながら、コンピュータの導入による新技術で、より一段と細かな織物紋様の制作と生産性の向上を可能にしています。

きょうやき きよみずやき

京焼・清水焼



奈良～平安時代にも焼かれていたが、室町時代に釉薬による新しい技法が中国から伝わり、これにより京焼・清水焼の元となる色あざやかな色絵陶器が誕生しました。これらは茶道の普及によって広く使われるようになり、江戸時代になるといっそう盛んに作られるようになりました。とくに清水寺近くで多く作られていたため「清水焼」の名がついたといわれています。自然の草花や風物を表した洗練された絵柄が特徴で、茶道具はもちろん、家庭で使われる食器など、たいへん多くの種類が作られています。

京友禅



江戸時代の中頃に扇絵師の宮崎友禅が模様染めをデザインしたのが友禅染の始まりといわれています。あらゆる模様を着物や帯に華麗に描き染める技術で、現在では刷毛や筆を使って模様を描き染めていく「手描友禅」と型紙を使って染めていく「型友禅」があります。どちらも高い技術をもった職人の手作業によるもので、一枚の白生地から友禅ができていくまでには多くの工程を必要とします。これらの工程は、専門職人によって分業で作業が行われますが、この分業生産体制が高い技術を伝え、よい製品づくりを受け継いでいます。

京都伝統産業

ふれあい館

京都市勤業館みやこめっせ（左京区岡崎 P18）地下1階にある施設で、京都の伝統工芸品約66品目450点あまりを一堂に集め、体系的に紹介しています。各コーナーには、実物作品だけでなく、製作工程をわかりやすく開設したパネルや映像資料などもあり、多種多様な伝統工芸の美と技の世界を見せてくれます。企画展示を行うギャラリーや図書室・ビデオコーナー、ショップのほか、摺型友禅体験コーナーがあり、コースターやハンカチ、Tシャツなどの制作体験ができます。

展示品目：西陣織、京友禅、京焼・清水焼、京くみひも、京漆器、京人形、竹工芸、京唐紙、金属工芸・七宝、象嵌、京仏具・京仏壇など



先端

京都のもうひとつの顔が先端産業の発達です。京都のハイテク産業の特色は、それぞれの企業が、他では真似のできない独自の分野を持っていることです。

製造業

実は、京都で最大の産業は製造業（工業）で、日本でも指折りの工業都市です。西陣織・友禅染・京焼に代表されるような伝統的な工業、そして半導体製品などの現代的なハイテク工業が京都を支えています。京都市南部を中心に、京セラ・任天堂・オムロン・ローム・村田製作所・堀場製作所・日本電産など、世界的にも有名なハイテク企業が集まっています。もともと京都は、京都大学をはじめとする多数の大学が集まっている学術都市であり、新しい技術を育て上げるためにはこの上ない環境にあります。そうした中で、独自の技術を掲げたベンチャー企業が次々と産まれていきます。前述の企業の多くはベンチャーとして始まり、今ではコンピューター社会には欠かせない製品を多くつくる大企業へと成長を遂げています。

ちょっとコラム

その他の産業

貴重な歴史的文化遺産が多く残る京都は、国内外から年間4900万人以上の観光客が訪れる国際文化観光都市です。観光客がもたらす経済的効果はたいへん大きく、京都の伝統産業・その他の製造業・食産業・農業・商業・交通運輸産業などは、観光と密接な関わりがあります。そこで京都市では、「観光」を都市活力創造の基軸として位置付け、「5000万人観光都市」の実現を目指して、新しい観光プランの開発や観光資源の発掘、新しい観光案内サービスの開始、観光関連企業や公的施設の連携を強めるなど、さまざまな取組を展開しています。

一方、京都で古くから続く産業に林業があります。京都市北部の京北地域は、北山杉の産地として栄え、ここで生産される木材は、室町時代より、茶の湯文化を支える茶室や数寄屋の建築用材として重宝されてきました。現代でも高級木材として、和風建築はもとより洋風住宅などにも使われるようになっています。